

## 【大腸がん地域連携パス運用手順】

大腸がん地域連携パスについて、次のように運用させていただきますので、ご協力よろしく  
お願いいたします。

### 1. 対象患者

1. 広島大学病院で手術を施行(初回)
2. 大腸がん術後 進行度I(例外的にII・III期を適応)
3. 告知済み

### 2. パス導入時の連絡

患者さんに地域連携パス導入の同意が得られれば、担当医またはパス担当者より連携医療機  
関の先生へ電話にて連携の依頼をさせていただきます。

### 3. 広島大学病院への定期受診など

基本は、術後1カ月(腫瘍マーカー)、術後6か月(腫瘍マーカー、CT)、術後1年(腫瘍マーカー、C  
T、下部消化管内視鏡)の検査を実施します。その後は6か月毎に腫瘍マーカーとCT、1年毎に下  
部消化管内視鏡検査を術後5年まで予定します。ただし、患者さんの状態や他の疾病などによっ  
てスケジュールは変わることがあります。

### 4. 連携医療機関の先生にお願いする診療

- ① 診療の間隔や内容については、大腸がんの共同診療計画書を参考にして頂き、適宜血液検  
査、腹部診察、排便状況の観察などをお願いします。
- ② 投薬については、基本的に連携医療機関の先生にお願いしております。
- ③ 定期受診日以外でも必要があれば、診察をして頂き必要があれば病院受診を患者さんに案内  
してください。

※採血データなどの診療情報を当院へ送付頂きますようお願いいたします。その際、貴院におい  
ては、月1回を限度として『がん治療連携指導料300点』を算定することができます。(パス導入時に  
がん治療連携計画策定料を算定したものに限りません。がん治療連携計画策定料の算定有無に  
ついては、連携開始時に患者さんごとに当院よりご連絡いたします)

### 5. パスの期間

術後5年間です。

### 6. バリエーション

1. 再発が疑われるとき(腫瘍マーカー上昇等)
2. 緊急時(腸閉塞などの急性腹症等)